

ハラ 経系共通で短納期対応拡充 カイ 環境配慮したデニムを追加

デニム製造国内最大手のカイハラ（広島県福山市）は、2010年から展開する短納期、小ロットに対応したデニムシリーズ「経系共通プログラム」の生地を拡充を進めている。先月には環境配慮型のデニムを新たに追加。1反からでも対応でき、量にもよるが2週間ほどで生産できる「稲垣

博章執行役員）強みを生かして販路を広げる。経系共通プログラムは、経系を糊（のり）付けビームで常に保有し、緯系の打ち込み変化で多種多様な生地を短納期、小ロットで生産するシステムで、ストレッチデニムの「KSシリーズ」を中心に構成。これまでに国内外の Apparel メーカー



生産で環境負荷を低減した新シリーズ

で採用があり、「認知が広がってきた」（稲垣執行役員）。

「FSシリーズ」の2種類をそろえる。経系には

ス「ロイカEF」を採用

の要望によって新ラインアップも拡充していきたく

先月か 同社オリジナルのスラブラ、同プロ ※「アヤメ」を採用。糸グラムで経の芯白部分が大きく残ったまま高濃度に染まる独特のインディゴ染料「Dステイナビリティ」をえ、薬剤使用量50%減、水使用量40%減、水のリサイクル率を40%に高めたインディゴ染料で染めた。

綿100 %の「FKシリーズ」

経系は7番手で設定し、デニムは11・5寸から14寸を中心に展開。ストレッチデニムには、旭化成の再生スパンテック「ロイカEF」を採用した。綿100%、ストレッチデニムとも同じ経系を使用することで、生産の効率化を図る。

先月に東京国際フォーラム（東京都千代田区）で開かれた「プレミアム・テキスタイル・ジャパン」で披露し反響を得た。現在はインディゴカラーのみだが、ブラックとホワイトの2色を7月に追加を予定する。

稲垣執行役員は「顧客の要望によって新ラインアップも拡充していきたく